

学習指導案（高校国語科・言語文化）

指導教諭

印

実習生名

印

1 基本情報

- ・対象
- ・実施日時 令和7年11月5日5限
- ・場所

2 授業テーマ（単元名）：「詩」（石垣りん「シジミ」中原中也「サーカス」）『精選 言語文化』（三省堂）

3 教材（教材観）

本教材は、それまでの日本にあった詩歌とは違う、新しい形式と言葉で歌った詩人たちの表現の詩であり、近代詩の特徴をよく表しているものである。これらの詩は比較的短く読みやすいことや擬音も多いことから、詩を読む面白さや朗読の工夫を考えながら作者の心情や情景も想像でき、なぜ作者がそのような表現をしようとしたのかをより深く考えさせることのできる教材である。

4 学習者（生徒観）

高校1年生。 本学級の生徒は、自発的に意見を述べ、教師の問いかけや質問に指名しなくても発言する生徒が多い印象がある。そしてペアワークやグループでの話し合いなどに対して積極的に取り組むことができる。近代詩との接触経験は少なく、近代の歴史的背景への理解も薄い。当時の詩人たちも現代に生きる私達と似たような感覚を持っていたということを実感することにより、学習に前向きに取り組むことができると考える。

5 指導（指導観）

作品中の作者の独特の表現が理解できない、ということから苦手意識が生じないように、丁寧に表現の解説を行い、作品に興味を持たせ、詩を読む面白さを感じることができるようになることを目指す。そして、詩を理解し朗読することが、読む者にとっても聞く者にとっても、詩をより面白く深く楽しめることであると学ぶために、生徒同士（グループワーク）でどのようにすればその作品の世界に即した朗読ができるかを考える時間を取ることや、朗読の発表をゴールに設けることで、生徒たちが感じたそれぞれの詩への理解を全員で共有し鑑賞できる授業計画とした。

6 単元目標（単元の評価規準）

- 「知識及び技能」…本文中の語句の正しい意味や読み方を理解することができる。
- 「思考力・判断力・表現力等」…作者の心情について考え、朗読に際し自分で工夫することができる。
- 「主体的に取り組む態度」…作者の心情や時代背景を理解したうえで、自ら詩を楽しむために、朗読を工夫しようとするすることができる。

7 単元計画 (総時間 3 時間)

時間	学習活動 (生徒の活動)	指導上の留意点	評価規準
1	<ul style="list-style-type: none"> ・「シジミ」という題材からシジミについて知っていることを答える。 ・詩というもの、その中でも近代詩の時代背景、現代につながる意義を知る。 ・詩を理解するために必要なことを考える。 ・「シジミ」の音読。 ・朗読を通じて作品を理解し、詩を読む面白みを感じる。 ・「シジミ」の音読を二回聞いて違いを感じる。 ・感想の発表 ・グループで心を込めることを実践して朗読。 ・振り返り、次回の「サーカス」を黙読。 	<ul style="list-style-type: none"> ・シジミにおいて興味を引くように問いかける。 ・近代詩の時代背景を既知の部分を探りながら紹介し、近代詩と現代の表現の共通点を示す。 ・読んで (朗読) で表現することが作者の心情を理解する手段であることを示す。 ・心情や背景理解をしたうえで、朗読を工夫することが詩とのかかわり方のひとつである、と紹介する。 ・作品を読み解くために作者の表現を中心に解説。(ワークシート) ・二回音読する。 ・一回目は淡々と読み、と二回目は気持ちを込めて読む。 ・二回の音読で、どちらが詩への印象の深まりを感じたか確認。読み方の工夫点を紹介。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本文中の語句の正しい意味や読み方を理解することができる。(A) ・作者の心情や自身の考えを伝えることができる(B) ・積極的に活動に参加している。(C)
2	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の振り返り ・中原中也について知る。 ・戦争やサーカスについての時代背景を知る。 ・「サーカス」の音読。 ・プリントを通じて作品の読解を深める。(第一連から第七連まで)(個人ワーク) ・解説を受けた後、第八連の情景がどんな様子かグループで考える。考えたことをメモする。 ・振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品の要点を書き込んでまとめられるプリント(ワークシート①)を全員に用意する。 ・語句の解説、作品の要約を行い読解を深める。 ・第八連の表現を少し解説した後、グループ活動をさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本文中の語句の正しい意味や読み方を理解することができる。(A) ・作者の心情や自身の考えを伝えることができる。(B) ・積極的に活動に参加している。(C)

<p>3</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の振り返り。 ・前回考えた第八連の情景を発表する。 ・第一連から第七連を復習し、第八連の読解をする。 ・全体を振り返る。 ・グループ内で、朗読の際の工夫点を話し合う。(グループワーク) ・グループで話し合った際に、朗読で気を配る点や工夫すれば良い点などについてなどを発表。 ・代表グループによる朗読。(「サーカス」の朗読会。) ・振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループにさせる。 ・ワークシート②を配布する。 ・第八連を範読し、PPTを用いて解説する。 ・黒板を用い全体をまとめる。 ・朗読を深めるためのプリント(ワークシート③)を配布する。 ・感想を一言。悪い部分ではなく、良いところを評価。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本文中の語句の正しい意味や読み方を理解することができる。(A) ・積極的に活動に参加している。(C) ・詩のリズム、言葉の響き、内容に注意した読み方を工夫できている。(B)
----------	---	---	---

8 本時の目標 (3/3)

今までの学びの内容から、より良い朗読のために自分たちで工夫したポイントを活かし、「サーカス」を朗読することを通して詩を楽しむ。

9 本時の指導上の工夫点

- ・グループ内で朗読のために工夫した点を話し合いフィードバックし合う際に、他の生徒の話を聞いて、こういった工夫点もあるのだと、気づき感じさせる点。
- ・詩の授業、全3回を通し、解説の前と後に朗読を体験させ、詩の内容や作者の心情を理解することが詩を深く知ることであることを実感させる点。

10 本時案

時配	学習活動（生徒の活動）	指導上の留意点	備考
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の授業「サーカス」のなかで一番印象に残っているフレーズは何か？答える。 ・第一連から第七連を振り返る。 ・前回第八連について話し合ったことをグループで確認する。 ・ワークシートへの書き込み 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート②を配布する。 ・グループにさせる。 ・話し合いについて3分程度時間をとる ・前回考えた第八連の内容、情景を2班ほど当て、発表させる。 ・第八連を範読して解説をする（ワークシートを用いる）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・もし出てこなければ、机間巡視した際に出ていた意見を紹介する。 ・PPTを用いる
展開 10分	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書を見て、第八連だけ下がっていることに注目し、なぜか考える。 ・全体を振り返り、詩の内容を再確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第八連が下がっていることの説明。 ・「サーカス」全体のまとめ。（第一連～第三連、第四連～第七連、第八連） 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体のまとめは黒板を用いる
展開 15分	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート③「朗読準備シート」をもとにグループで意見を交換し合う。 ・グループ内で話し合った際に作品について新たに気づいた点や、朗読の際に工夫する点についてプリントにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート③（朗読準備シート）の配布 ・どのように読むかを考えさせる。 例) 静かに、しつとりと、寂しそうに等 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ内でうまく話し合いができていないか教室を巡回し指導する。
展開 7分	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで考えた朗読の際の工夫点を発表し、朗読する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・任意のグループを選び、代表者にグループでまとめた内容を発表させる。 ・教師が感想を述べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朗読発表を促す。 ・配慮が必要な生徒がいるグループは選ばない。
まとめ 2分	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシートを書く 	<ul style="list-style-type: none"> ・今日までの授業の感想を書くように言う。 ・詩には様々な解釈の仕方があって、今日まで学んできた読み方とは異なる読み方があるといい、それが詩の読み方なのだ、ということ話す。 	